

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1881~1929年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

ようがが
洋画家



ゆかりのある場所など:

- たかはしなりわびじゅつかん
・高梁市成羽美術館
- くらしきりつじゅつかん
・倉敷市立美術館
- おおはらまごさぶろう
・大原 孫三郎
- こじまとらじろうきねんかん
・児島虎次郎記念館



こじま
児島

とらじろう
虎次郎

新見市

高梁市

総社市

倉敷市

矢掛町

浅原市

里庄市

笠岡市



こじまとらじろう めいじ ねん いま たかはしなりわちよう う
児島虎次郎は、明治14（1881）年、今の高梁市成羽町で生まれました。

こ え とくい さい とき しょうきよう とうきょうびじゅつかう にゅうがく ころ
子どものころから絵が得意で、20歳の時に上京し、東京美術学校に入学しました。その頃、
くらしき じつぎょうか おおはらまごさぶろう であ がくしえんじょ う
倉敷の実業家である大原孫三郎と出会い、学資援助を受けるようになりました。

とうきょうびじゅつかう おんし くらだせいき いしいじゅうじ けいえい おかやまこじいん えが
東京美術学校の恩師である黒田清輝のすすめで、石井十次が経営する岡山孤児院を描いた
なさ にわ なりわ すいしゃごや えが さと すいしゃ めいじ ねん
「情けの庭」と、ふるさと成羽の水車小屋を描いた「里の水車」を明治40（1907）年に
おこな はくらんかい しゅっぱん さと すいしゃ はくらんかい とうしょう じゅしょう なさ にわ
行われた博覧会に出品しました。すると、「里の水車」が博覧会で1等賞を受賞し、「情けの庭」
くないちよう か あ いっさ なまえ せけん し
は宮内庁の買い上げとなったことで、一気に名前が世間に知れわたりました。

とらじろう きんべん せいかく き い さいとしうえ まごさぶろう しょうがいしんこう も けいざいてきえんじょ
虎次郎の勤勉な性格が気に入られ、1歳年上の孫三郎とは生涯親交を持ち、経済的援助を
う つづ
受け続けました。

かいがせいさく どりくじ もさく つづ かれ まごさぶろう いらい う かいがが
絵画制作では独自のスタイルを模索し続けた彼でしたが、孫三郎からの依頼を受け絵画買
つ すうど わた さくひん
い付けのため数度ヨーロッパに渡り、モネ、エル・グレコ、ゴッガン、ロダンなどの作品
こうにゅう しゅうしゅうひん いま おおらはびじゅつかん きそ つく
を購入しました。この収集品が今の大原美術館の基礎を作りました。

たいしょう ねん めいじじんぐうほうさんかい めいじてんのう たた へきが さくせい いらい
大正13（1924）年に明治神宮奉賛会より明治天皇を讃える壁画の作成を依頼されま
こころざしなか びょうき へきが かんせい しょうわ ねん
したが、志半ばにして病気になり、壁画の完成をすることなく昭和4（1929）年に47
さい しょうがい と へきが ゆうじん よしだしげる しょうわ ねん かんせい
歳で生涯を閉じました。なお、この壁画は友人の吉田苞により昭和9（1934）年に完成し、
めいじじんぐうせいとくきねんかいかん てんじ
明治神宮聖徳記念絵画館に展示されています。